

本領域における主張

第1分科会【教育課程】

1 研究のねらい

教育課程審議会の答申では、小学校算数の改善事項に「教育内容を厳選し、児童がゆとりをもって学ぶことの楽しさを味わいながら数量や図形についての作業的・体験的な活動などの算数的活動に取り組み、数量や図形についての意味を理解し、考える力を高め、それらを活用していきけるようにする。」とある。

これを受けて、新学習児童要領は算数科改善の方向として

- ① ゆとりの中での基礎・基本の確実な定着
- ② 楽しさと充実感のある学習
- ③ 児童の主体的な活動の重視

の3本の柱が示された。この視点からTTに関する研究について考察していく。

(1)基礎・基本の定着を測る学習過程の研究

児童の学習速度に対応した授業 … 習熟度別コース学習

(2)楽しさと充実感のあるTT指導の研究

TT指導によって児童の躓きが克服され、児童に学ぶ楽しさを感得させる内容

(3)児童の主体的な活動の重視

考え方に対応した授業 … 解決方法によるTTの授業

TTによる授業では、子供一人一人の考えを生かした指導を行うことが可能である。

具体的な作業体験を取り入れていく重要性

2 研究テーマに迫るポイント

以上のことから研究テーマを「量感を養う単元構成の試みーティームティ칭ングによるコース別学習を取り入れた指導」とし、量感を養うためにティームティ칭ングをどう活用していくかを研究の視点とした。

① 量感を養うために

・長さの量感から、縦と横という広がり量の量感を養うために、実際の広さにふれる場面を単元の中に位置づける。

・体験を通して学ぶ場を設定する。

② ティームティ칭ングによるコース別学習

・児童の主体的な活動とするために、自己選択による方法別活動を取り入れる。

・自分の方法のよさだけでなく、相手の方法のよさを見つけさせる。お互いの方法のよさを知ることによって、自分の方法のよさを自覚することができる。

3 本提案の位置づけ

体育館に1㎡の新聞紙を引いて、量感を養う活動をする。コース別活動をすることで自分が調べた方法のよさだけでなく、相手の方法のよさを見つけだすことができる